

## 「モスリン」における図像学的考察

### 武庫川女子大家政○徳山孝子

目的 今、まぼろしの「モスリン」と云われるほど目にするものがなくなった。が、明治時代から昭和初期にかけて、絹織物の生産高を上回るほど広範囲に普及した。モスリンは、きもの、袴、じゅばん、座布団にまで使われ、日常生活の中にとけ込むようになった。モスリンのデザインは、何を語りかけているであろうか。モスリンを分類、分析することにより、デザインや文様の背後に潜む歴史的背景、世相・諸相を推測し探求した。

方法 明治後期から昭和初期のモスリン布を約600枚収集し分類した。分類方法は、日本古来からのデザイン、西洋の影響を受けたデザイン、当時の世相を表現したデザインに分類し、さらに、植物文様、動物文様、幾何文様、人物文様等に細分類した。

結果 モスリンのデザインは多種多様で、当時の世界観、人生観が表現されていた。たとえば、西洋の影響を受けたデザインには、ウィリアム・モリス、アール・ヌーヴォー等の影響を受けた文様が多く見られ、植物の文様には、ぼら、ゆりが多く西洋のあこがれが伺われる。子供のじゅばんには、野球のデザイン、戦争のデザイン、おもちゃのデザイン等、当時の流行が推測された。